



'To acknowledge the duty that accompanies every right'  
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

# THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA  
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,  
 OSAKA, JAPAN



2016年1月No.404  
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2014~2015)	クラブ役員 Officers
センテニアルクラブ会長 : 『楽しくそして魅力ある活動を!』 国際会長 : 『信念のあるミッション (使命・目標)』 アジア地域会長 : 『愛をもって奉仕しよう』 西日本区理事 : 『あなたならできる! きっとできる』 中西部部長 : 『和を以って貴しとなす』	会 長 : 何 早林 副会長 : 藤井 大祐 書 記 : 藤原 正巳 ドライバー : 松浦 孝次 会 計 : 大村 肇 メネット会長 : 中村 幸枝 Y連絡職員 : 池田 聡美

## Biblical Message of January

心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる

(マタイによる福音書 5章 3~4節)

### 囲碁習い事始め

山中 秀男

昨年から囲碁を習い始めた。切っ掛けはロンドンに住む小メネット圭から、孫メット嘉齊(カイ)の学校で授業ゲーム時間の選択で、チェスか碁のどちらか決めるよう云われたが如何しようと相談を受けた。

当方どちらも不案内。チェスにしておいたらと返事した。しかし、調べてみると碁は2千年も前に中国で始まり、論語、孟子にも登場し、唐、宋代時代まで盤上に多くの石を置いた方が勝ちという簡単なルールから、5世紀朝鮮、7世紀日本奈良、平安時代に渡来する頃にはほぼ現在のルールになり、清少納言も紫式部も大いに嗜み、枕草子、源氏物語にも登場させ、室町、戦国時代、江戸期に入ると、公家、大名の素養とされ、碁会所という庶民の娯楽にまで発展した。最近のブームは、漫画“ヒカルの碁”が起爆剤だ。交互に石を置き、より広い地を囲みとる簡単なルールだが、底が深い。京都の経済人が運営する碁会所、祇園、ランカ(中国式呼称)へ毎月通い、孫メットに伝授出来るまで上達したいと頑張っている。

(次号は藤原正巳さんです)

## January Club Meeting

『IBC/DBC』

中西部合同新年例会(第1例会)

日 時 : 2016年1月23日(土) 12:00~15:30  
 (受け付けは11:30から)

場 所 : 大阪YMCA会館大ホール  
 ホスト : 大阪クラブ

第1部 式典

第2部 第2部 邦楽(尺八、箏、詩吟)

第3部 講演「世界情勢の分析と聖書のメッセージ」

講師 : 高橋剛一郎(大阪ヘルプ研究所主任研究員)

第4部 懇親会

お誕生日 : 1月=中村幸枝メネット、三浦、中村茂、藤井の各メン

※お祝いは、2月例会時に

1月第2例会

日時 : 2016年1月27日(水) 18:30~20:30

場所 : 土佐堀YMCA会館4階



ハワイの初日の出

## 【クラブ統計 Statistics】

12月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 19名	メ ン	15名	7名	12月 0g	12月: 14,446円
例会出席 15名	メネット	4名	0名	現 金 0円	
うちメーキャップ	ビジター	0名	0名	累 計	累 計: 76,946円
0名	ゲ ス ト	2名	0名	切 手 204g	
出席率 78.9%	合 計	21名	7名	現 金 0円	ファンド累計 0円

コンプレックスがある人は、それを克服しようとして、努力し、すばらしい人間に変わる可能性があります。物事に表と裏、光と影があるように、自分の弱点を弱点として認識したとき、或いはそれは その人の長所になるかも知れません。自分を静かにみつめる余裕を持ちたいものです

(聖句選/コメント：三浦 直之)

(次号は松浦和子さんです)

## 12月第1例会報告

と き：12月16日(水) 18:45～20:45

ところ：ホテルグランヴィア大阪

暖冬とはいえ、日一日と寒さが増す大阪の街。メン、メネット、ゲスト 21 名が集まり、今年最後の例会が開催されました。本日のメインスピーチは中村隆幸メン。「ミャンマー最新事情」と題し、3カ月に及ぶミャンマー・マンダレーで日本語教師をした体験を報告していただきました。

大阪の国際ボランティアネットワークにより開設された「HITO センター」では、20 代が大半ですが、17 歳から 40 歳まで 100 名余りの学生が熱心に日本語を学んでいるとのこと。中村メンは、基本コース 1、2 で日本語の文法や漢字を指導。日本の企業がミャンマーに進出し、日本に対する関心も高い。中村メンは文化の違いによる教える難しさを体感したようです。

現地での食事は鶏肉が中心で、骨付き肉はおいしく、中村メンには大変合っていたとのこと。彼の地での最高のもてなしは食事にオイルをふんだんに使うそうです。

また、中村メンはマンダレーの僧院で行っている小学生から高校生まで 2,000 名に及ぶユニークな教育システムを紹介。運営費は寄付でまかなわれているとのことでした。

さらに、話は、なぜアウンサン・スーチー党首が率いる最大野党 NLD が上下院の過半数を獲得したかの秘話にも及び、とても興味深いミャンマーのお話をうかがうことができました。

その後、ハネリ・マカヒキ・ウクレレバンドによるクリスマスソングや讃美歌が奏でられ、大きな輪を作りプレゼント交換で今宵の楽しい例会を締めくくりました。(中村茂高)



ミャンマーでの体験を語る中村隆幸メン

## ≡≡ Club Activities (December, 2015) ≡≡

On December 16, our club's final meeting for the year 2015 was held at Hotel Granvia Osaka with a total of 21 Y's men, Y's menettes and guests in attendance.

One of highlights of the meeting was a speech made by our member, Dr. Takayuki Nakamura who had just come back home from Mandalay, Myanmar after teaching Japanese language for 3 months at the HITO Center, founded by a Japanese volunteer network in Osaka.

Titled on "The latest educational situation in Myanmar", he made an impassioned speech about his experiences at the center. We were all very impressed by his enthusiasm for teaching Japanese under rather uncomfortable living conditions as a volunteer.

According to Dr. Nakamura, about 100 students now study at the center whose age varies from 17 to 40s.

At the school, there are a total of 7 grades of classes, i.e., elementary, basic 1 & 2, intermediate, N3, N2 and N1 and those students who are graded as N1 to N3 are eligible for studying in Japan. Although students are very diligent in studying, almost 50 % of the students drop out due to the duplication of their examinations at their own universities or colleges. Dr. Nakamura expects that more than 10 of his students will come to Japan to continue their studies next spring.

His speech also covered a very unique education system at a large Buddhist Monastery in Mandalay where over 2,000 students from elementary-school to high-school levels are studying, putting up at the boarding house inside the monastery. At this school, no tuition fee and/or boarding fee are required as all the fees are covered by donations. Thank you Dr. Nakamura. We learned a lot from you!

Another highlight of the meeting was a musical performance by our Haneli Makahiki Ukulele Club led by our Mr. Mituo Shibata. We sung a number of popular Christmas songs and hymns to the accompaniment of their music. After the music performance, we exchanged X'mas presents, making a big circle.

Yen 14,446 was collected for our club's smiling fund at the meeting. It was donated to the Osaka YMCA's Christmas Fundraising campaign as usual.

谷川 寛

イスラエルとパレスチナとの衝突が激化する懸念が強まっています。今回の衝突のきっかけは、昨年9月にイスラエルのユダヤ教とパレスチナ系の住民が信仰するイスラム教の宗教儀式が重なったことにあります。

双方の聖地であるエルサレムの「神殿の丘」で超正統派ユダヤ教徒(Ultra Orthodox Jews)と呼ばれる一団とパレスチナ系住民との間で発生したいざこざが発端といわれています。この超正統派ユダヤ教徒は、イスラエルの暑い夏でも黒い服を着て、カフタンと呼ばれる黒色のフロックコートを日常的に着用しています。黒い帽子を被り、長いひげを蓄え、鬘にはピオートと呼ばれる巻き毛を垂らしています。この集団はイスラエル社会でも特異な存在です。

彼らはユダヤ教の教えに文字通り忠実で、金曜日の日没から始まる安息日(シャバット)には、一切の労働を禁止されてことから、それを厳格に守っている人々です。

毎日、あの「嘆きの壁」に現れ、トーラ(Torah)を読み、祈りを捧げます。下の写真 私たちが彼らに近づいても、動揺せず、一心不乱に祈禱に専念していました。

敬虔な男性は信仰のため生活のすべてを捧げ、祈りに専念し、その妻が働いて家計を支えている場合が少なくなく、このような家庭は子供の数が多いのが一般的です。彼らがユダヤ教の信仰を全うするために、イスラエル政府から補助金が出ています。イスラエル国民に課せられた兵役義務(男性は3年間)を彼らは免除されてます。女性は兵役の代わりに社会奉仕に従事することを求められます。この一団が「神殿の丘」で起こしたパレスチナ人との衝突で、イスラエル全土に緊張が高まりました。



嘆きの壁の前の正統派ユダヤ人

## 12月第2例会報告

と き: 12月24日(木) 18:30~20:30

と ころ: 大阪YMCA 会館4F

出席者: 石津、大村、岡本、芝田、何、三浦、山中の各メン

報告/協議事項

〈ワイズ活動〉

- ① クリスマス献金 ~1月末
- ② チャリティーボウリング大会 1/30(土) 17:30  
桜橋ボウル/センテニアル=三浦、大村、石津、何、HIS生徒チーム
- ③ 「ワイズの森づくり・うなぎの森」集会  
2月11日(木・祝) 12:00~クライトン新大阪  
会費5千円。申し込みは各自で
- ④ 2015-2016年度次期国際会長選挙 12月末までに  
Mr.Henry Johannes Grindfeim/ノルウエーに投票
- ⑤ 2016年度インターナショナル・ユースコンボケーション(YC)参加者推薦 該当者なし

〈クラブ〉

- ① チャリティー「ファミリーコンサート2016」3/26  
他クラブへのアピール役割分担。  
チケット販売の協力。クラブメンバーに1人10枚。  
未就学児については、席が要る場合は500円。  
席が要らない場合はチケットなし。
- ② センテニアルお茶会(2月TOF例会)  
会費:500円(抹茶、和菓子付)  
卓話者:YMCA職員(担当:中村茂)  
和菓子=芝田メン お茶=メネット
- ③ 次期会長の件

(第2例会議事録より抜粋)

## YMCAニュース

### ☆第273回 早天祈禱会

日時:2016年1月15日(金)7:30~8:30

証し:Chan Wanderagaraさん(大阪女学院大学講師)

場所:大阪YMCA会館 10階チャペル

### ☆表コミ卒業生成人祝福礼拝

日時:2016年1月11日(月・祝)13:00~14:00

場所:大阪YMCA会館 10階チャペル

成人祝福礼拝は、「地元の成人式に行けないので、ぜひ表コミでして欲しい」という卒業生保護者の声を受け、昨年度より行っている成人のお祝いです。

今回も10名の成人が会場に足を運んでくれます。

ぜひお時間ございましたら、ご参加くださいませ。

池田 聡美





## ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

### 《ビジターからのメッセージ》

- Merry Christmas! Dr. 中村隆幸さん、お帰りなさい。ミャンマーの人々と素晴らしい交流を深められ、素晴らしいお働きに心から敬意を表します。引き続き共にミャンマー支援を続けましょうね。  
(大阪サウスクラブ・恵美奈博光)
- 本日は有難うございました。クリスマス献金よろしくお願ひ申し上げます。  
(大阪西クラブ・湯浅 禎也)

### 《会員、メネットからのメッセージ》

- 私も1か月前にミャンマーに行き、その時の情景が蘇ってきました。熱心な若者が多い国であると感じました。日本の子どもたちが自分の意志を持って夢に向かって歩んでいける為には何が大切かを教えてくれる国だと思いました。  
(池田 聡美)
- 今年最後の例会。楽しい雰囲気です。来年も楽しい例会をしていきたいものです。  
(石津 雅人)
- 中村メンのミャンマーでのボランティア活動ご苦労さまでした。マンダレーでの体験談、興味深くお聞きすることができました。  
(大村 肇)
- メンバー中村メンの経験卓話にウクレレでクリスマス、センテナリアルらしいクリスマス例会となりました。来年はコメント2人連れで参加します。  
(岡本 剛介)
- ミャンマーは私にとって未知の国です。中村先生のお話は大変興味深いものでした。有難うございました。  
(坂本 千春)
- 中村先生お帰りなさい。お疲れ様でございました。マンダレーのボランティア先生としてのご経験卓話、大変わかりやすくご説明頂きましてありがとうございます。  
(芝田 光雄)
- 12月例会、中村Dr.のお話楽しく聞きました。3年前、笹川平和財団の招きでネピドーを10日間訪問した時を思い出しました。有難うございました。  
(谷川 寛)
- 中村隆幸メンのミャンマー体験、興味あるお話有難うございました。ボランティア精神が素晴らしい。  
(中村 茂高)
- 皆様いかがな一年でしたでしょうか。来年もよろしくお願ひ申し上げます。  
(中村 幸枝)
- 年齢70を過ぎて熱帯地方のミャンマーで3ヶ月間のご奉仕、誠に苦労さまでした。色々ご不自由もおありになったことと存じますが、強靱な肉体と精神力に感心しております。  
(藤原 正巳)
- 3ヶ月間お疲れさまでした。今日はとても参考になりました。いつかヤンマーに行ってみたいと思います。  
(何 早 林)
- 中村メンのレポート、さらりとされていましたが、実にご苦労があったことでしょう。継続してミャンマーに奉仕されていることは実に貴いです。感服しました。  
(松浦 孝次)
- リアルタイムなミャンマーのお話、大変勉強になりました。教育～芸術まで幅広く有難うございました。  
(松田 明久)
- 中村Dr.ミャンマーからお帰りなさい。ボランティアされている姿、敬意を表します。私もDr.の様な生き方をしたいと思います。  
・年の瀬押し詰まりましたが、来年もよい年であるように！  
(三浦 直之)
- いつもながらセンテナリヤ's Men's Clubの明るく、フレンドリーな会合に参加でき、感謝しております。寿命もまた一廻り伸びた様な気分です。  
(山田 孝彦)
- 日経連載の“私の履歴書”(元大丸社長、奥田勉氏)の本日分に小生のニューヨーク事務所長時代の様子が紹介されています。感謝です。  
(山中 秀男)
- Dr.中村、僧院の話に興味深く伺いました。楽しいクリスマス。来年もよろしく。  
(山中ちあき)



今年最後のハネリ・マカヒキ・ウクレレバンドによる演奏

## 後 記

「許す心」

昨年の6月、南部カロライアナ州チャールストンの教会で、白人至上主義の男に射殺された牧師ら黒人の追悼式が行われました。壇上に上がったオバマ大統領が突然スピーチを止め、しばらくの沈黙の後、「アメージング・グレース」を歌い出すと、たちまちそれは参列者総立ちの大合唱になり、天をあおいで涙を流す人の姿も見られました。

独立宣言で「平等」をうたった米国は今年、建国 240周年を迎えます。7年前、初のアフリカ系大統領として華々しく就任したオバマの任期は残り1年。「一つのアメリカ」の理想はいまだ遠い。ある黒人牧師は、「それでも我々の歴史は痛みの歴史。何か被害を受けた時、ゆるさなければ、いつまでも憎しみに心を支配される。ゆるすことは、自らを開放することなのです」と語ります。

(1月1日朝日新聞の紙面から)

昨年1月25日亡くなった藤木正三・元京都御幸町教会牧師(87)の言葉。「相手がまず頭を下げたら許そう。こちらには落ち度がないのだから相手の出方を待つ心がやがて殺意の芽を生む。正しいと思ったら徹底的に主張する。しかし徹底を求める心もやがて殺意の芽を生む。自分の方からまず手を差し伸べ、折り合おうとする心が大事」。

主義主張を超え、「一つの世界」として平和な社会が訪れることを私たちは願うばかりです。

新年あけましておめでとうございます。

今年も皆様と心をついに、ワイズ活動に励みましょう！

S.N